

経営比較分析表（令和6年度決算）

岡山県瀬戸内市 瀬戸内市立瀬戸内市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	その他
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	14	-	ド訓	救臨感輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
36,160	7,803	第2種該当	-	10:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
110	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	110
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
108	-	108

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
[]	令和6年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の明確・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

救急、小児、精神科といった不採算部門に関わる医療を提供している。乳がん、子宮がんといった健診業務についても、引き続き行った。健診結果により、精密検査が必要な方についても、その検査を実施している。訪問看護ステーションを運営し、地域包括ケアシステムの担い手として、住み慣れた場所ですべて生活できるように地域を支えている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

入院患者数は、昨年より1日平均4人増加している。入院患者1人1日当たりの収益は昨年度より若干増加した。外来患者数は昨年より1日平均5人増加している。外来患者1日当たりの収益は若干減少した。食材の高騰、物価高の影響で材料費が大幅に増加し、燃料価格も高騰し光熱水費が増加した。国の政策として職員の賃金上昇が推し進められ、診療報酬上でベースアップ評価料が算定できるようになったが賃金上昇分を全て賄うのではなく、費用増加が進み経常収支率は低下した。一般の入院患者を最大限受け入れていけるよう、近隣開業医及び高度急性期病院や介護施設等への訪問活動を行っている。

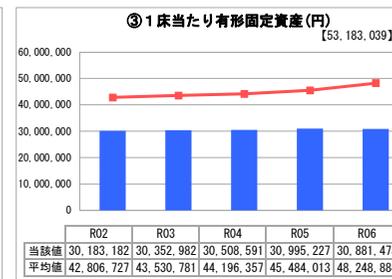
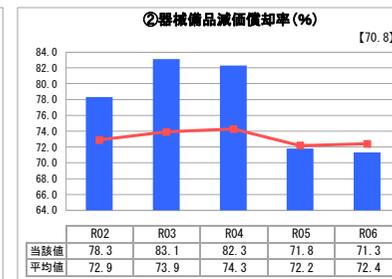
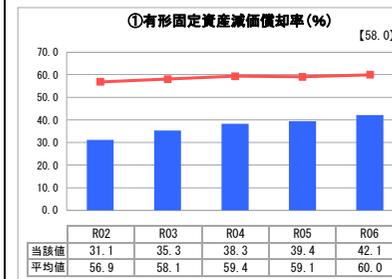
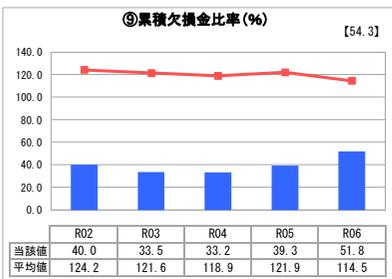
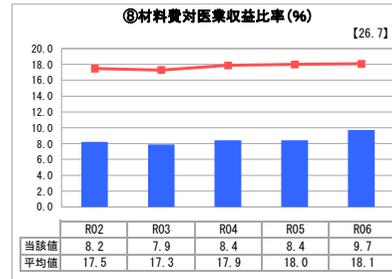
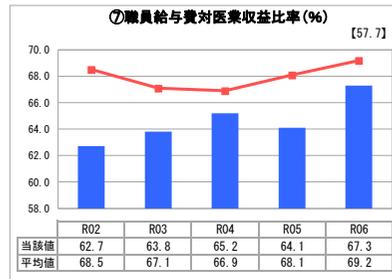
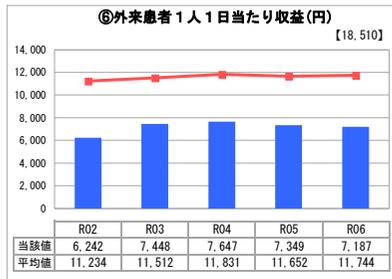
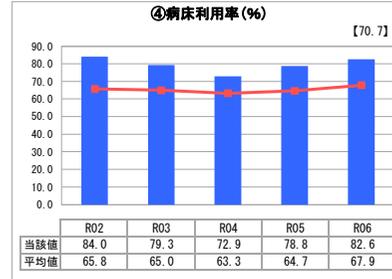
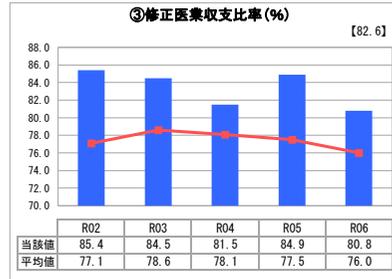
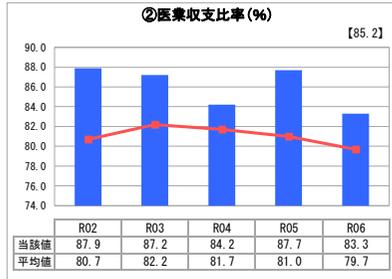
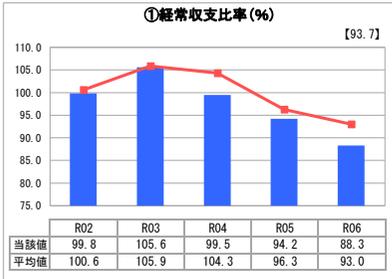
2. 老朽化の状況について

平成28年10月より新築病院で経営を行っており、建物の老朽化には該当しない。医療機器については、それぞれの耐用年数経過時に、今後の使用状況、対費用効果などについて更新するか判断している。令和6年度は、全身用X線CT装置（80列）、自動視野計、内視鏡システム周辺機器を更新し、自動釣銭機を導入した。

全体総括

食材の高騰、物価高の影響で材料費が大幅に増加し、燃料費の高騰による光熱水費の増加、国の政策として職員の賃金上昇が推し進められ、経常収支率は低下した。一般の入院患者を最大限受け入れていけるよう、近隣の開業医や高度急性期病院、介護施設等への訪問活動を行っている。また、令和6年度から令和9年度にかけての病院経営強化プランを策定し、進捗管理を行ったが、上述の影響もあり、収支計画目標数値に届かなかった。その中でも、施設基準を維持するため、看護必要度の高い患者を確保するなど経営強化プランの目標達成を目指したが、難しい結果となり、令和7年度は点検評価を実施する予定であるため、プランの変更も視野に審議していく。

1. 経営の健全性・効率性



※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。